

一般社団法人東京高専技術懇談会ニュース

2011年1月15日号

一般社団法人東京高専技術懇談会発行

年頭にあたって

会長 大田吉彦

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

また平素は東京高専、技術懇談会の教育事業、産学連携事業、地域活動等にご協力をいただき有難うございます。技術懇談会も社団法人となって2年目を迎えることとなり、会員企業も100社を超える陣容となりました。みなさまのご理解の賜物と感謝申し上げます。

去年は日本から北海道大学の鈴木章名誉教授、バドュー大学の根岸栄一教授と二人のノーベル賞受賞者を出したことは日本人に誇りと夢を与えてくれました。

また宇宙探査機「はやぶさ」が50億Kmを7年の月日をかけて小惑星「イトカワ」の貴重なサンプルを持ち帰ったことは興奮と感激を与えてくれました。おそらく日本の技術者にとってはおおきな感銘と自信を与えてくれたニュースであったと思います。

しかし経済については、大企業においてはここ数年低迷していた状態から抜け出した感じもありますが、一部の中小企業では未だ苦しい状態にあります。生産、物づくり、といった仕事が中国をはじめとする海外に取って代わられたためであります。これは大企業が製品の生産を中小企業に依頼していたものを、海外の自社工場、あるいは海外企業に移したためであります。このため、下請け企業の倒産、廃業などが起こっています。この影響は大学、高校の新卒業生にも及び、報道によりますと今年の新卒者の正規社員としての就職率は50%程度とのことです。これは世の中が変わったと見るべきだと思います。すべてがグローバルになったのです。これからの企業は競業相手も仕入先も納入先も国内ばかりでなく海外にあることを意識しなければいけません。企業のグローバル化は避けて通れないと思います。

また技術の進歩もはやくなりました。製品やその生産工程、物づくり方法など従来のままの技術では通用しなくなってきました。その変化も激しく、新製品開発、新技術による生産が絶えず求められる時代になっています。技術革新—イノベーションが重要です。



これらに対応するためには人材が必要であります。すぐれた人材を確保、養成することが必要であります。しかし残念なことに企業は厳しい状態になりますと教育費を最初にカットする傾向があります。これはおおきな間違いであります。企業の存続、発展を望むなら人材育成を第一に考えるべきであります。

現在CO2問題からエネルギーに関心が集まっています。再生可能エネルギーとして太陽電池、燃料電池などが注目されています。自動車業界ではリチウム電池への移行が本格化しています。世の中のエネルギー源が変わると世間が必要とする技術も大きく変化します。我々は一大産業革命の真ただ中にいるのかもしれませんが、世界の動きや変化から目をはなしてはいけないと思います。

このような状況を踏まえ技術懇談会は第一に技術者再教育を取り上げたいと思います。人材育成が重要だからであります。匠塾をもっと充実することです。第二に先端技術の情報の提供です。この分野の高専での講義を企業に開放してもらうのも一つの方法であります。第三は企業が先生や職員の方々や学校をもっと利用することだと思います。プロジェクトについては専門の先生方と共同研究、情報交換、助言などもいただけます。高度な測定器、分析器、加工機なども利用できます。外部施設の見学会なども有意義であります。専攻科の研究発表会はテーマを見ても自社の専門外の分野の動向などを把握することができます。またインターシップでは高専生が企業にきて従業員とともに仕事をしますが純真な目で企業を見ることができ企業としても得るところがあります。

まだまだ各企業と高専との関係を強めることがあると思います。

本年もさらに東京高専と会員企業、会員企業間、関連業界との関係強化に努力していくつもりであります。みなさんのご協力をおねがいたします。またみなさんのますますの発展をお祈りいたします。

事務局より

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ致します。新年早々寒波の来襲で、日本列島は凍てつくような寒さに見舞われています。寒さにめげず、活発な技術懇談会活動に取り組んでいきたいと思ひます。1月に研究資源見学会、3月に異業種交流会を開催します。このほかにも、様々なイベントを行います。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。kikaku@tokyo-ct.ac.jp